

# 令和6年度 事業報告

社会福祉法人 巣立ちの杜

・ ・ 目 次 ・ ・

☆法 人 ・ ・ ・ ・ ・ 1

☆レオナルド・ダ・ヴィンチ牧場

1、馬事業の状況 ・ ・ ・ ・ ・ 3～5

2、利用者の状況 ・ ・ ・ ・ ・ 5

3、対外交流 ・ ・ ・ ・ ・ 6

4、施設・器具等整備 ・ ・ ・ ・ ・ 6

5、事業活動状況 ・ ・ ・ ・ ・ 6～8

6、支援サービスの状況 ・ ・ ・ ・ ・ 8

7、保 健 ・ ・ ・ ・ ・ 8

8、事故防止 ・ ・ ・ ・ ・ 9

9、避難訓練 ・ ・ ・ ・ ・ 9

今後の課題 ・ ・ ・ ・ ・ 10

## 1. 総括

法人設立15年を過ぎ、現状の収益事業の立て直しを継続している。法人の基本的責任・役割となる障害者福祉を中心に経営をしていることを再確認し、今後の福祉政策の動向を見定め就労継続支援B型事業にて運営を継続している。5年先の社会福祉法人としての経営を考えていく。

## 2. 事業内容

R 5	4・1	辞令交付
	6・7	監事監査
	6・8	第1回 理事会
	6・16	第1回 評議員会
	8・3	法人納涼祭
	10・2	第2回 理事会
	11・10	第2回 評議員会
	3・9	第3回 理事会
	3・23	第3回 評議員会

## 1. 令和6年度の状況

### 1) 馬事業の状況

馬預託に関しては1頭だけとなった。法人所有馬は3頭となっている。養老馬預託事業は不安定な現状が継続している。養老馬は年齢が増すごとに体調不慮のリスクが増え、ポニーに関しては、5頭購にてイベントに向け調教を継続しているが、1頭は脚関節の不具合により棄殺となってしまった。

*現在、自馬（預り馬） 1頭		半自馬（預り馬、半額） 0頭	
法人所有馬	馬 3頭	ポニー	4頭
計 9頭			

馬は特殊な業界であることを踏まえ、乗馬倶楽部としての経営には馬を預けたくなる技量と楽しませる人柄が必要である。前記の条件は顧客が判断していることを謙虚に受け止める人にならなければ達成できない。馬事業全体の管理ができる人材の育成をし、預託馬を最低でも1頭以上増やせるよう目標を設定していかなければならない。養老馬を集めることはバブル景気以後衰退しており、現状の景気を考えても急増できないことが予想される。馬の管理には365日人材が必要であり、預託料金を含め適正価格を再検討しなくてはならないと考えている。個人の入会だけでは収益を伸ばすことは難しく、関係機関、市町村等に協力を依頼し安定した収益を得ることが必要である。

職員各々の役割を確実に遂行できない実態があり、毎月の職員会議を利用して報告を行い対応策の検討を継続し、事業所外研修を利用して資質の向上を図っている。

人員配置基準の職員配置にて支援サービスを提供させていただいているが、6年度より職員が利用者6人を支援できなければ、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の基では経営は成り立たないことを周知している。個々の職員は一生懸命に働いている。事業所職員としてチームワークにて支援することを継続して徹底している。

引き馬イベントは、コロナ感染症による壊滅的な状況が改善方向に向かっている。

就労継続支援B型事業にて、利用者が望む支援を行う事業所として運営を継続している。平均工賃は月30,000円支給することが出来た。作業に見合った賃金から、利用者の望む作業をしたい時に、出来る範囲で行ってもらふ事業となり職員の技量が問われる。より利用者に寄り添った支援を提供しなければいけない。

## 2) 全事業の売上割合

事業内容	令和6年度	令和5年度	令和4年度
*養老馬の世話をする。 預託料金・運動料金	27.5 (2頭)	25.8% (2頭)	31.7% (2頭)
*乗馬に来て下さるお客様のために馬を育てる。 預託料金・調教料金・会費収入・騎乗料金	335万円	276万	345万
*引き馬イベント イベント料金	13.1 159万	13.2% 142万	7.7% 84万
*その他の収入 施設外就労賃金・野菜販売等	57.9 705万	59.9% 643万	59.4% 646万
*肥料・堆肥事業	1.5 19万	1.1% 12万	1.1% 12万

\*設立時、収益事業の中心としていた養老馬が壊滅的な状態。他の乗馬倶楽部からの情報でも養老馬としての預託は現状の景気からは望めるものではない。開所から16年7ヵ月経過し問い合わせも殆どなくなっている。伊香保アリサ中山調教師より紹介が中心となっている。法人所有馬の活用を考えている。

### \*肥料事業

家庭菜園・バラ愛好家に販売活動を行い少量ではあるが販路の開拓を行っている。固定客として定着してくださる方もできた。株式会社グットアイとの連携を模索。

## 2. 利用者の状況

【利用者の推移】定員20名

令和7年 3月

【現 員】 21名（入院3名・登所拒否1）

【年 齢】 25～74歳

【男女比】 17：4

【利用者地域別内訳】高崎市 7名 前橋市 4名 渋川市 5名 みどり 1名  
沼田市 1名 中之条町 1名 足立区 1名 榛東村 1名

職員が安定した生活を送れることにより支援がより充実し、障害者に望まれる事業所へと飛躍できる。職員の資質こそがレオナルド・ダ・ヴィンチ牧場の障害者に提供する最良の技量を備えてほしい。

### 養護学校高等部及び利用希望者の実習状況

- ・令和6年 5月 (3日間) T様5月より利用
- ・令和6年12月 (3日間) S様12月より利用
- ・令和7年 3月 (3日間) K様3月より利用

### 3. 対外交流

月 日	内 容
毎月 1～2 回 随時	近隣ワラ回収（請負含む）  事業所近隣道路清掃 近隣への貢献（草刈、稲わら・もみ殻の引き取り） 桃井様のトウモロコシ回収

### 4. 施設・器具等整備

月 日	物 品 名	数量	金額（単位＝円）	備考
R6. 4. 1	はかり台	1	8, 8 0 0	
9.3 0	刈り払機	2	3 4, 7 6 0	

### 5. 事業活動の状況 ☐収益事業 ☐研修等

月 日	活 動 内 容
【4月】	
1	辞令交付
2	<input type="checkbox"/> しいたけ請負作業
2 3	<input type="checkbox"/> 柏崎二葉こども園 イベント
(5月)	
3	<input type="checkbox"/> 前橋総合運動公園イベント
5	<input type="checkbox"/> 代々木公園イベント
7	<input type="checkbox"/> 星野理事宅除草作業
1 1	<input type="checkbox"/> のびゆく子どもの集い芳賀地区
1 2	<input type="checkbox"/> のびゆく子どもの集い
1 9	<input type="checkbox"/> のびゆく子どもの集い富士見地区
2 2	<input type="checkbox"/> 星夜の森イベント
2 4	<input type="checkbox"/> ライフイベント
2 5	<input type="checkbox"/> 高崎市立特別支援学校イベント
2 6	<input type="checkbox"/> のびゆく子どもの集い総社地区・宮城地区
【6月】	
1	<input type="checkbox"/> 女堀史跡除草作業開始
6	第一回理事会
1 3	懇親会 カルピス工場見学
1 6	第一回評議員会
【7月】	

7	□水道メーター請負作業
【8月】 3 15 26	法人納涼祭 懇親会 足利ココファーム見学 □高花台・鶴光路町除草作業
【9月】 4 10 19 23	富士見中学校職場体験 福祉パレード 懇親会 BBQ ○さいたま動物愛護センターイベント
【10月】 1 12 16 17 20 27 28 29	□女堀除草作業開始 □スローフード協会イベント □新町中河原こども園 懇親会 桐生からくり人形博物館 □あかぎフェスタ 第2回理事会 □榛東村にこちゃんイベント □ぽらりすこども園イベント
【11月】 3 5 8 10	□富士見産業祭 □榛東北部保育園 □ぽらりすこども園 高崎イオンクリーン作戦 第2回評議員会
【12月】 3 5～6 18 23	□高崎にそばら堆肥納品 事業所旅行 月岡温泉 ○サービス管理責任者更新研修会終了（山口） □ロビン薬殺
【1月】 9	新年顔合わせ・ゆうあいフェスティバル見学
【2月】 19	□榛東北部幼稚園イベント
【3月】 9 11 23	第3回理事会 □榛東南幼稚園 第3回評議員会

## 6. 支援サービスの状況

利用者が馬を中心に生き甲斐を持って取り組める仕事の確保を第一とし、工賃の向上に繋げられるよう取り組んでいたが、コロナ感染症によるイベント事業中止が数年継続したこともあり再開をしない顧客も出てきている。

障害者の特性を理解して、その目的を受容、共感しながら利用者個々にあった支援サービスを提供しなければならないとの思いは持ち続けているが、中心としている馬事業の衰退により請負作業を取り入れ作業に追われている現状であり、職員への障害者理解のための研修教育時間が取りにくくなっている。

前橋市、高崎市、渋川市、吉岡町と日中一時事業契約を締結した。15歳以上の知的障害者が対象となるため、とっさの行動に対応できる職員育成が急務である。基準単価により報酬が決定されるため、区分により受け入れることが出来ない事態は避けなければならない。令和5年度はコロナ感染症により利用はなかった。

日常は就労事業を中心に支援サービスを提供しているが、そのメリハリとして、利用者間の懇親と慰労等を兼ね、事業所定休日で開所できる日を懇親会として設定し、自由参加にて希望があった方を対象として、アクティビティ支援を就労事業所として出来る内容を提案させていただき、利用者の自由な意思により参加していただいている。今後は保護者と共同で開催できる行事を計画し、保護者との関係を構築できる機会としていきたい。

## 7. 保健部門

◎保護者より本人の疾病等について、注意すべき点等の説明をいただき、必要な方には薬を預かり職員全員で把握した。

◎平素より本人の状態を把握し、異変に早く気づくよう心がけた。

◎感染症に対する予防

＊食事前のうがい・手洗いの励行（アルコール入手洗い洗剤使用）

＊ペーパータオルの使用

＊長靴洗浄の励行

＊使い捨てカップの使用（紙）

＊便座クリーナーの使用

月 日	内 容
R 6. 6.26	生活習慣病検診 社会保険加入利用者35歳以上
R 7. 3.25	健康診断（成人病検診以外の方）身長・体重・血圧・問診
職員随時（1/年）	健康診断（入職時）

## 8. 事故防止

事故報告書によると、事業所内・外活動時、十分に注意を払っているものの大きな事故につながる可能性があったことが挙げられている。

### ＊事業所利用時

・不明	アルファード助手席後部破損	R 6.	6.	5
・職員M	ハイエース左サイドミラー破損	R 6.	6.	1 4
・利用者O様	キャビネットカラス破損	R 6.	6.	1 4
・利用者O様	パソコンディスプレイ破損	R 6.	6.	1 8
・利用者K様	馬への危険行為 背中裂傷	R 6.	8.	2 0
・利用者T様	利用者S様への暴力行為（送迎前）	R 6.	9.	1 2
・職員T	アルファードドアミラー損傷	R 6.	9.	2 3
・利用者F様	軽自動車への傷	R 6.	9.	3 0
・職員T	アルファード前輪パンク	R 6.	1 0.	1 1
・利用者A様	利用者E様への暴力	R 7.	1.	1 1
・職員T	利用者S様行方不明	R 7.	3.	2 0

5月5日代々木公園イベント終了後、保護者会長より全体把握（利用者への支援）ができる職員がいないと不安であると連絡が入る。

＊些細な事と自己判断して報告されない事案もある。

＊運転前点検の励行を確認。

## 9. 避難訓練

月 日	内 容
R 6.1 1.2 7	前橋消防署見学・ビデオ鑑賞
R 7. 2.2 8	通報・消火・避難訓練

年2回の避難訓練であったが、利用者の協力もあり避難においてはスムーズな誘導が行っていた。

### 【今後の課題】

障害者をありのまま受け入れる（受容）ができない事により、障害特性による行動も職員個人の一般常識と照らし合わせて対応してしまう。月1回職員会議を開催し、個別支援計画・モニタリングを確認周知すると共に、行事に関する情報の共有化を図っている。障害者に教える。障害者を訓練する。との考えを拭うまでにはいたっていない。問題行動を軽減させるためにどのような支援が必要か、どのように支援すれば仕事ができるようになるのか、利用者・保護者は何を望んでいるのかを全職員で考え、安全安心と感じてもらえる事業所として支援をしていかなければならない。障害者と共に汗を流し、一緒に考え、喜びを分かち合うことが出来る障害特性を理解した職員育成を継続している。

収益事業では、近隣リプロテック・D r . G R E E Nとの契約により作業の安定確保の継続。